

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

- 「大空の心をもち、未来を自分でつくる日野南っ子」
- 基礎・基本を身に付け、自分で考え行動し、解決できる子を育てます。(知)
 - すすんで挨拶をし、自分を大切にし、人を思いやり、感謝する心を育てます。(徳)
 - 体力づくりを通して、心身ともにたくましく生きる子を育てます。(体)
 - 人とのかかわり協働し、夢や目標をもち、よりよい社会をつくる力を育てます。(公)(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

- 〈大空の心をもつ〉
- ・自分を大切にできる心 ・人を思いやる心
 - ・感謝する心
- 〈未来を自分でつくる力〉
- ・自分で考え行動し解決する力
 - ・人とのかかわり協働する力
 - ・夢や目標をもち、よりよい社会をつくる力 ・体力づくりを通して、たくましく生きる力

具体化した資質・能力

- 自分を大切にできる心
- 人を思いやり、感謝する気持ち
- 自分で考え、行動する力
- 人とのかかわり協働し課題を解決する力
- 夢や目標をもち、よりよい社会をつくる力
- 体力を向上させ、たくましく生きる力

中期取組目標

- 子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、主体的・対話的な学びを充実させます。
- ・1年目は、自分の思いをもち、仲間と考えを交流しながら学び、課題を解決する授業づくりを目指します。
- ・2年目は、身の回りから問題を見出し、仲間と学び合いながらよりよく課題解決する授業づくりを目指します。
- ・3年目は、夢や目標に向かって問題を見出し、仲間と学び合いながらよりよく課題解決する授業づくりを目指します。
- まちの「人」とのかかわりを大切に、豊かな経験を通して、まちを愛する心を育てます。
- ・3年間を通して、まちの「人」とかかわれる学習を設定し、友達と協働して、地域や社会に参画する姿勢を育てます。
- ・3年間を通して、一人ひとりが自己有用感をもち、安心して学校生活が送れるようにします。

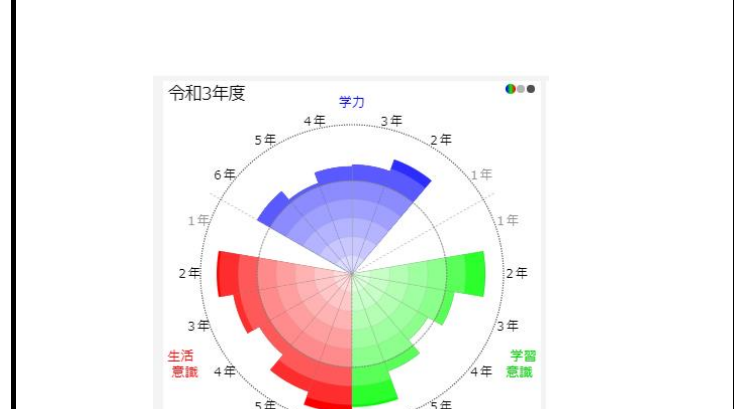
学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①学習の見通しをもち、人とかかわりの中で自分の考えを伝え合う力を高め、振り返りで学びを自覚できるように、主体的・対話的な授業づくりを工夫する。②重点研究の主題を「夢や目標に向かって問題を見出し仲間と学び高め合う子ども」とし、生活科・総合的な学習の時間を中心に、課題解決力や人とかかわる力を育成する。
担当	研究部：大久保

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童の実態
令和3年度の横浜市学力状況予備調査の結果からは、学習意欲と生活意欲が、大幅に伸びてきていることがわかる。学力では、横浜市の平均と同等、学年によってはやや平均を上回っている。教科ごとと比較して、算数が伸びているが、国語については昨年度を若干下回っている。生活意欲については、大きな向上が見られた。自分の考えをもち表現しながら学習する児童が育ってきていることがわかる。

(教科学習の状況)
国語科：「話す・聞く」と「書く」能力で課題のある学年がある。社会科：「知識理解」について、課題のある学年が多かった。特に、方位や県の位置、世界の主な国の名称などの理解に課題が見られる。
算数科：「技能」について課題がある学年がある。「理科意識」については、どの学年も高い。
(学力層経年変化分析)
どの年度においても、約2割程度の児童の学力に課題が見られる。上位と下位の二極化が見られる。



- (2)これまでの取組の振り返り
- ・3年生以上で教科担任制を取り入れる。
 - ・算数で、2クラスを3つのグループに分け、少人数グループ学習の実施。
 - ・めあてをきちんともち、それに対する振り返りを毎時間行う。

今年度の目標

- 子どもの学習意欲を高めるとともに、基礎的・基本的な知識の定着をめざす。
- 自分の考えをもち、友達の考えをじっくりと聴いて、自分の考えを確かにしたり変容させたりすることができる力を育成する。

目標を実現するための具体的行動プラン

- 【子どもの学習意欲向上、基礎的・基本的な知識の定着のために】
- ・子どもの学習意欲を高めるために、実験・観察・体験など各教科での学習形態を工夫する。
 - ・朝学習の時間をもち、反復学習を大切にす。
 - ・ワークシートを複数準備したり、用具操作を取り入れるなど、個に応じた授業づくりを行う。
 - ・3年生以上で教科担任制を取り入れる。
- 【自分の考えをもち、友達の考えをじっくりと聴いて、自分の考えをたしかにし変容させたりすることができる力を育成するために】
- ①学習の見通しがもてるように、単元のはじめに子どもたちとゴールを明確にし、学習計画を立てる。
 - ②自分の考えをもつことができるように、課題に対して自分の考えをもつ時間を授業中に設定する。
 - ③友達の考えをじっくりと聴くために、ペアやグループなど様々な形を工夫する。
 - ④自分たちが考えでも、まずは受け止めることの大切さに気付かせ、友達の考えをきちんと聞く態度を育てる。
 - ⑤自分の考えの変容について、授業の終わりに振り返りの時間を設け、時間ごとの自分の考えの変容に目を向けることができるようにする。

上半期

下半期

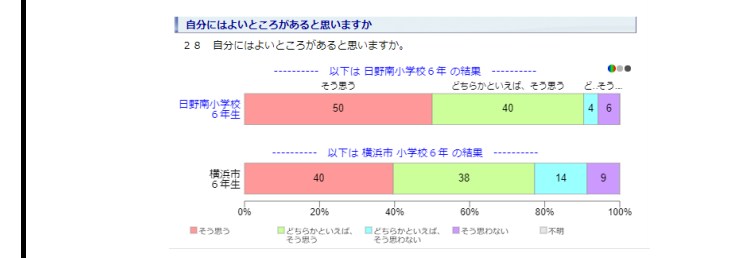
豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
大空の心	①縦割り活動では、異学年の友達とのかかわりを大切に、相手を思いやる心や役割を果たして協働する姿勢を育てる。②人とかかわりを通して、自己有用感をもち、自分を大切にできる心を育てる。③「ありがとうの会」や「感謝のつどい」、人権学習などを通じて、自分を支えてくれた方たちに「感謝する心」を育てる。
担当	指導・評価部：杉本

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態
○物事に熱心に取り組む、最後まで達成しようという気持ちをもって活動している。また縦割り活動や地域の方など人とかかわりを大切に、相手のために何かしようとする態度が育ってきた。しかし、人の気持ちを考え行動することには至っていない。また、自分の考えに自信をもち、行動することに課題が残る。
○教師が提示した課題には熱心に取り組むが、さらに積極的に課題を作り進めようという意欲が薄い。
○思いやりや優しさはもっているものの、リーダーとして、グループを引っ張っていくことなど強い気持ち・意思が生まれにくい。優しいがゆえに、いっしょにやろう、協力しようという気持ちはあるが、人の上に立ち、まとめようということに関しては遠慮がちで行動には現れない。今後その点では教師の助言が必要である。

(2)これまでの学校の取組状況
○YPAセメントの支援検討会では、褒めることを多くても自分のしていることに自信がもてないようである。そのため、褒めることだけではなく、自信がもてる作業や学習を多くし、教師が褒めなくても自分で納得する活動を増やしたところ、自己肯定感が高まりつつある。
○いじめアンケートを実施することで一人ひとりに面談をし、話を聞くことで日頃聞けなかった話を聞けたり、一緒に考えたりすることができ、児童の気持ちを一つの方法にもなった。



今年度の目標

- ①異学年とのかかわりを大切に縦割り活動が充実するよう、活動の持ち方を工夫し、相手を思いやる心や協働する姿勢を育てる。②Y-Pの結果と日頃の観察を通して学級や個人の状態を把握し、横浜プログラムを生かし、互いに認め合える居心地のよい学級、学校づくりを目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

- 【道徳教育】
- ・道徳推進教諭が授業展開例を示し、道徳の時間の指導力向上を図る。
 - ・保護者に向けて、全学年が年一回は授業公開をする。
 - ・子どもが身につける道徳的価値をわかりやすく指導する。また、普段の自分の行動について自ら考えられるようなワークシートなどを使い、振り返りをしながら次への行動に生かしていくよう支援する。
- 【人権教育】
- ・個別支援級―一般級との連携を図り、児童・保護者間の理解をより深め、支援に生かせるようにする。
 - ・YPAセメントの支援検討会の実施により、学級課題の改善や子ども個人の課題の改善に向けて校内の指導体制を整え、教師集団が「だれもが安心して豊かに」過ごすことができる学級風土づくりへ向けた協働ができるようにする。
 - ・縦割り活動で、子ども一人ひとりの思いに添った声かけや能力に応じた適切な指導に必要な支援が行われ、豊かな心が育ち、充実した生活が送れるよう支援する。
 - ・まちの「人」とかかわる学習を設定し、体験的な活動を通して社会や地域にかかわろうとする心や感謝する心を育てる。
 - ・いじめアンケートを実施し、確認や経過観察などを丁寧に行い、全校職員で指導支援にあたる。
 - ・運営委員会の提案で子どもたちの挨拶運動が続いている。教師側も児童に挨拶の大切さを伝えるため、月初めの5日間を挨拶週間として、声掛けをする。
 - ・代表委員会を通して、だれもが安心して過ごせる学校について具体的な取組を考え、全校で取り組む。
 - ・一人ひとり活躍の場をもてるように、多様な場を設定していくとともにそれぞれの頑張りを認め合う時間をもつ。
 - ・縦割り活動やクラブ・委員会では、6年生のリーダーシップが育つよう全教員でサポートしていく。

上半期

下半期

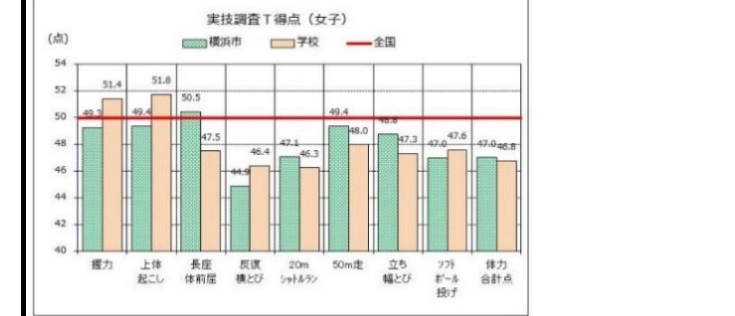
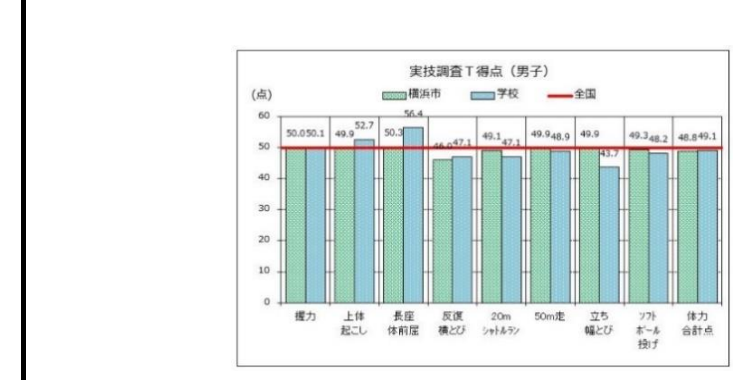
健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①毎週水曜日の中休みに体力アップを行い、児童一人ひとりがめあてをもって取り組めるようにする。②学校保健委員会では、家庭と連携し、規則正しい生活を送ろうとする姿勢を培うとともに、手洗い等の感染防止の習慣化を図る。
担当	体力向上：柴田

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童の実態
令和3年度の全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果によると、男女ともに反復跳び、20mシャトルラン、立ち幅踏み、ソフトボール投げで、全国平均を下回っている。生活意識については、朝食の摂取、睡眠時間、テレビ等の視聴時間の長さの項目については、全国平均と大きな差はない。新体力テストの結果にも、この傾向は表れている。
小高い整備された住宅地に立地しているため、土地開発とともに公園も適所に配置され、遊ぶ場所は確保されていると言える。だが、体を動かすなど運動につながる遊びをしている児童は限られている。また、地域のクラブチームなどを含め、習慣的に運動やスポーツに関わっている児童は少ない方である。加えて、一週間の中で、ほとんど体を動かさない(運動していない)児童もいる。学校内では、教年間で、外遊びが可能な日の休み時間、校庭で鬼遊びやソフトボールをしたり、固定遊具などで遊んだりする児童が少ない状態だったが、近年は、増加傾向にある。

(2)これまでの学校の取組状況
これまで、「体力アップ」として、短縄跳びやマラソンに取り組んできた。一週間の中で運動に関心習慣は、身に付き始めている。だが、近年の新型コロナウイルス感染症によって、運動がかけられているため、運動に対する意識と体力の低下は否めない状況であると見える。



今年度の目標

- 体力づくりを通して、心身ともにたくましく生きる子を育てる。(高学年)体力づくりを通して、心と体のバランスを維持し、向上させる。(中学年)積極的に運動に取り組み、心と体を鍛える。(低学年)生活習慣を身につけ、体を動かす楽しさを味わう。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ・体育科の授業では、めあてをもって、意欲的に取り組めるよう、場の工夫をしたり学習カードを活用したりする。
- ・保健の学習を通して、健康・安全について理解し、自らの健康を適切に管理する能力を育成できるようにする。
- ・これまでの学習等で身に付けた運動能力を発揮し、児童自らが動きの高まりを実感できる場となるような運動会にする。
- ・学校保健委員会では、子どもたちの健康づくりを促進するために、生活リズムの振り返りの取組を実施する。日頃から指導している事例について、児童に振り返らせることにより、定着を図る。
- ・長期休業中において、家庭での食事の後の歯磨きが定着するよう励行する。
- ・体力向上と運動習慣の形成を目指す取組として、水曜日の中休みに、「体力アップ」を行う。
- 令和4年度は、ラジオ体操を実施する。
- ・運動委員会が主催する運動に関する集いを、一年間に数回実施する。

上半期

下半期

学校教育目標	「大空の心をもち、未来を自分でつくる日野南っ子」 ○基礎・基本を身に付け、自分で考え行動し、解決できる子を育てます。(知) ○すすんで挨拶をし、自分を大切にし、人を思いやり、感謝する心を育てます。(徳) ○体力づくりを通して、心身ともにたくましく生きる子を育てます。(体) ○人とかがわり協働し、夢や目標をもち、よりよい社会をつくる力を育てます。(公)(開)			
	学校概要	創立 48 周年 児童生徒数: 329 人	学校長 川田 由紀 主な関係校: 日野南中学校、小山台中学校、本郷中学校	副校長 小野 由紀 2 学期制

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	日野南中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<p>〈大空の心をもつ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分を大切にする心 ・人を思いやる心 感謝する心 <p>〈未来を自分でつくる力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分で考え行動し解決する力 人とかがわり協働する力 夢や目標をもち、よりよい社会をつくる力 ・体力づくりを通して、たくましく生きる力 	<p>日野南中学校</p> <p>日野南小学校</p> <p>日野小学校</p> <p>小坪小学校</p>	<p>○多様性を尊重し、協働して高め合う子ども</p> <p>○主体的・対話的に学び続ける子ども</p> <p>①人を思いやる心を育むために挨拶運動に取り組む。</p> <p>②「対話的な学びの充実」をブロック授業研のテーマとして設定し、各教科・領域等においてテーマを意識した授業を展開する。</p> <p>③児童生徒交流日や小中交流会で6年生が中学校の授業と部活動を見学する。</p>

中期取組目標	<p>○子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、主体的・対話的な学びを充実させます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年目は、自分の思いをもち、仲間と考えを交流しながら学び、課題を解決する授業づくりを目指します。 ・2年目は、身の回りから問題を見出し、仲間と学び合いながらよりよく課題解決する授業づくりを目指します。 ・3年目は、夢や目標に向かって問題を見出し、仲間と学び合いながらよりよく課題解決する授業づくりを目指します。 <p>○まちの「人」とのかかわりを大切に、豊かな経験を通して、まちを愛する心を育てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間を通して、まちの「人」とかかわる学習を設定し、友達と協働して、地域や社会に参画する姿勢を育てます。 ・3年間を通して、一人ひとりが自己有用感をもち、安心して学校生活を送れるようにします。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
<p>知 生きてはたらく知</p> <p>担当 研究部: 大久保</p>	①学習の見通しをもち、人とかかわりの中で自分の考えを伝え合う力を高め、振り返りで学びを自覚できるように、主体的・対話的な授業づくりを工夫する。②重点研究の主題を「夢や目標に向かって問題を見出し仲間と学び高め合う子ども」とし、生活科・総合的な学習の時間を中心に、課題解決力や人とかかわる力を育成する。
<p>徳 大空の心</p> <p>担当 指導・評価部: 杉本</p>	①縦割り活動では、異学年の友達とかかわりを大切に、相手を思いやる心や役割を果たして協働する姿勢を育てる。②人とかかわりを通して、自己有用感をもち、自分を大切にする心を育てる。③「ありがとうの会」や「感謝のつどい」、人権学習などを通して、自分を支えてくれた方たちに「感謝する心」を育てる。
<p>体 健やかな体</p> <p>担当 体力向上: 柴田</p>	①毎週水曜日の中休みに体力アップを行い、児童一人ひとりがめあてをもって取り組めるようにする。②学校保健委員会では、家庭と連携し、規則正しい生活を送ろうとする姿勢を培うとともに、手洗い等の感染防止の習慣化を図る。
<p>公開 公共心と社会参画</p> <p>担当 研究部: 大久保</p>	①生活科や総合的な学習の時間に、まちの「人」とかかわる学習を設定し、社会や地域にかかわろうとする心や、参画・協力しようとする態度を育成する。②まちの「人」や専門家とかかわる学習を通して、自分の生き方について考えたり、夢や目標をもったりできるようにする。
<p>いじめへの対応</p> <p>担当 いじめ防止対策委員会: 宮内</p>	①月1回のいじめ防止対策委員会で、ていねいに子どもへの支援の仕方について教職員で話し合い、いじめ防止に努める。②児童アンケートを定期的または適宜実施し、子どもの困り感などを教師が察知し、いじめの早期発見に努め、些細な変化を見逃さない体制づくりをする。
<p>人材育成・組織運営(働き方)</p> <p>担当 教務部: 宮崎</p>	①7年次以下の職員を中心にメンターチームを組織し、経験豊かな教職員が講師となって月1回の活動を継続して行う。②学校づくりワーキングを通して、全教職員が主体的に学校運営にかかわり、チーム力の向上を図る。③チーム学年経営を通して、複数の教員で児童を見守り、指導の効率化を図り、働き方改革につなげる。
<p>地域学校協働活動</p> <p>担当 教務部: 宮崎</p>	①学校運営協議会で、学校と地域の目標を共有し、まちの「人」とかかわる学習や地域行事を通して、社会に開かれた学校づくりを推進する。②登下校の安全を見守る「安全パトロール隊」や、学習ボランティア、おはなしの会などの方たちの活動を、地域学校協働本部が推進する。
<p>児童生徒指導</p> <p>担当 児童指導: 宮内</p>	①児童がすすんで挨拶ができるように、教職員が月初めの5日間に挨拶運動に取り組み指導する。②Y-Pの結果と日頃の様子から学級や個人の状態を把握し、横浜プログラムを生かして、認め合える居心地のよい学級づくりや学校づくりをすすめる。③スタンダードについて、全教職員がチームとして共通した指導を行う。
<p>特別支援教育</p> <p>担当 特別支援教育委員会: 兼田</p>	①一般級と個別支援学級の情報交換をに密にし、交流が円滑に行われるようにする。②個別支援学級の環境整備や参観を全教職員で行い、ユニバーサルデザインについて理解する。③障害を含めた多様性を認め、誰もが安心して授業に参加できるように、研修などを通して教育活動を見直す。
担当	